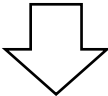


【総合戦略 : 序章 大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたって】

素 案	修 正 案
<p>(3)「大山崎町総合戦略」の骨格</p> <p>【P6】</p> <p>■大山崎町における基本目標</p> <p>基本目標1 大山崎町への新しい人の流れをつくる</p> <p>基本目標2 活力の回復・向上を担う人を育成する</p> <p>基本目標3 安心なくらしを守り、利便性の高い生活を確保する</p> <p>基本目標4 大山崎町における安定した雇用を創出する</p>	<p>(3)「大山崎町総合戦略」の骨格</p> <p>【P6】</p> <p>■大山崎町における基本目標</p> <p>基本目標1 安心なくらしを守り、利便性の高い生活を確保する</p> <p>基本目標2 活力の回復・向上を担う人を育成する</p> <p>基本目標3 大山崎町への新しい人の流れをつくる</p> <p>基本目標4 大山崎町における安定した雇用を創出する</p>
<p>(4) 本町の現状と課題</p> <p>【P8】</p> <p>・ 図表2 年齢階層別人口・高齢化率の推移</p> <p>【P10】</p> <p>本町への転入者は、京都府、大阪府で約7割を占めている。平成26年(2014年)において、京都府では、京都市が48.0%、長岡京市が26.8%で割合が高くなっている。大阪府では、大阪市と高槻市が17.9%、枚方市と茨木市が11.9%で割合が高くなっている。</p> <p>本町からの転出者は、京都府、大阪府で約6割～7割を占めている。平成26年(2014年)において、京都府では、長岡京市が41.6%、京都市が37.4%で割合が高くなっている。大阪府では、島本町が25.0%、大阪市が20.5%、高槻市が18.2%、茨木市が9.8%で割合が高くなっている。</p>	<p>(4) 本町の現状と課題</p> <p>【P8】</p> <p>・ 図表2 <u>大山崎町</u>年齢階層別人口・高齢化率の推移</p> <p>【P10】</p> <p>本町への転入者は、<u>図表6</u>のとおり京都府、大阪府で約7割を占めている。平成26年(2014年)において、京都府では、京都市が48.0%、長岡京市が26.8%で割合が高くなっている。大阪府では、大阪市と高槻市が17.9%、枚方市と茨木市が11.9%で割合が高くなっている。</p> <p><u>一方</u>、本町からの転出者は、<u>図表7</u>のとおり京都府、大阪府で約6割～7割を占めている。平成26年(2014年)において、京都府では、長岡京市が41.6%、京都市が37.4%で割合が高くなっている。大阪府では、島本町が25.0%、大阪市が20.5%、高槻市が18.2%、茨木市が9.8%で割合が高くなっている。</p>

素 案	修 正 案
<p>【P 1 3】 (財政) 本町の平成 25 年 (2013 年) 度における一般会計歳入決算は 56 億 36 万 7 千円、歳出決算は 53 億 5,017 万 8 千円となっている。平成 25 年度における住民税 (所得税) を個人と法人で見ると、本町では、個人が約 71.2%、法人が 28.8%、国では約 60.3%、法人が 39.7%となっている。</p> <p>【P 1 4】 ■課題 本町の人口動向については、年齢 3 区分別人口の推計において、年少人口と生産年齢人口が全国の推移と同様に減少傾向を示しているが、高齢者人口については、平成 44 年 (2034 年) まで減少した後、平成 60 年 (2048 年) に向けて増加となる推移となっている。</p> <p>特に、本町では生産年齢人口に対する年少人口と高齢者人口割合が、全国に比べて平成 52 年 (2040 年) 以降急激に大きくなっており、この人口構成改善に向けた取組み課題については次の 4 点となる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>・人口ビジョン P 5 4 の「(1) 人口の将来展望に向けての課題」と同様に</p>	<p>【P 1 3】 (財政) 本町の平成 25 年 (2013 年) 度における一般会計歳入決算は 56 億 36 万 7 千円、歳出決算は 53 億 5,017 万 8 千円となっている。平成 25 年度における住民税 (所得税) を個人と法人で見ると、本町では、個人が約 71.2%、法人が 28.8%、国では個人が約 59.7%、法人が 40.3%となっている。</p> <p>【P 1 4】 ■課題 本町の人口は昭和 61 年の 16,638 人を頂点に長期的に減少傾向で、平成 26 年 (2014 年) で 15,431 人、高齢者人口 (65 歳以上) は 27.1%で、4 人に 1 人以上が 65 歳以上となる本格的な高齢社会を迎えている。将来人口推計 (大山崎町総合計画 基本構想) では、平成 72 年 (2060 年) には総人口 11,031 人、高齢者人口は 37.5%で 3 人に 1 人以上が 65 歳以上と予想される。</p> <p>本町の人口推計については、年齢 3 区分別人口において、年少人口と生産年齢人口が全国の推移と同様に減少傾向を示しているが、高齢者人口については、平成 44 年 (2034 年) まで減少した後、平成 60 年 (2048 年) に向けて増加となる推移となっている。</p> <p>特に、本町では生産年齢人口に対する年少人口と高齢者人口割合が、全国に比べて平成 52 年 (2040 年) 以降急激に大きくなっている。いますぐに出世率が回復したとしても、経済・産業活動に影響を与える生産年齢に影響するのは 15 年以上先になる。本町の合計特殊出生率は、平成 10 - 14 年 (1998 - 2002 年) では全国や京都府より低かったが、平成 20 - 24 年</p>

素 案	修 正 案
	<p><u>(2008 - 2012 年) では京都府より高く、全国と同水準まで高まっている。こうした状況を踏まえ、できるだけ早く、交流人口拡大によるまちの活力の回復・向上を実現し、若い世代の転出を抑制して、人口減少に歯止めをかけることが必要である。この人口構成改善に向けた取組み課題については次の3点となる。</u></p>
<p>課題1 交流人口を拡大し、定住やにぎわいに結びつけ、まちの活力の回復・向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>本町は、天王山や国宝待庵、アサヒビール大山崎山荘美術館など歴史に深くかかわりのある遺産、建造物等の観光スポットが豊富にあるが、近年の観光入込客数、観光消費額はともに数年来、減少傾向。</u> ● <u>アンケート結果においても、町内の観光スポットの認知度はそれほど高くなく、主な観光スポットである大山崎山荘美術館（35.6%）、天王山頂・山崎城跡（34.0%）でさえ約3割半ばにとどまっている。</u> ● <u>地域の観光資源を活かしきれていない状況がうかがわれるが、本町の観光は成長の余地が大きいと考えられる。</u> ● <u>観光振興により訪問者を拡大して町の魅力を知ってもらい、まちのにぎわいや定住者の増大に結びつけ、まちの活力を回復・向上することが重要と考えられる。</u> 	<p>課題1 アメニティ不足を解消して快適で質の高い生活＝「大山崎ぐらし」の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>アンケート調査では日常的な移動、買物、通院等の快適さ（アメニティ）は低い評価となっており、町内のアメニティ不足を解消し、子どもから大人まで誰もが快適で質の高い生活を実感できるようにすることが必要である。</u> ● <u>町内には商業施設が少ないが、本町の自動車の普及率は高く、隣接市に自動車で移動し購買活動をしていて、日常生活は町域を超えて成り立っている側面がある。</u> ● <u>今後は、子どもから大人まで各年齢階層に応じた住民の視点で、様々な利用状況・利用手段を想定し移動手段だけではなく、危険な場所・道路の改善の環境整備を含めた快適さを追求し、本町の住民のライフスタイルに合った質の高い生活（「大山崎ぐらし」）を創出することが重要と考えられる。</u>
<p>課題2 若い世代の希望がかない、安心して出産・子育てができるようにする</p>	<p>同 左</p>

素 案	修 正 案
<p>課題3 アメニティ不足を解消して快適で質の高い生活＝「大山崎ぐらし」の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査では日常的な移動、買物、通院等の快適さ（アメニティ）は低い評価となっており、町内のアメニティ不足を解消し、子どもから大人まで誰もが快適で質の高い生活を実感できるようにすることが必要である。 ● 町内には商業施設が少ないが、本町の自動車の普及率は高く、隣接市に自動車移動し購買活動をしていて、日常生活は町域を超えて成り立っている側面がある。 ● 今後は、子どもから大人まで各年齢階層に応じた住民の視点で、様々な利用状況・利用手段を想定し移動手段だけではなく、危険な場所・道路の改善の環境整備を含めた快適さを追求し、本町の住民のライフスタイルに合った質の高い生活（「大山崎ぐらし」）を創出することが重要と考えられる。 	<p>課題3 交流人口を拡大し、定住やにぎわいに結びつけ、まちの活力の回復・向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本町は、天王山や国宝待庵、アサヒビール大山崎山荘美術館など歴史に深くかかわりのある遺産、建造物等の観光スポットが豊富にあるが、近年の観光入込客数、観光消費額はともに数年来、減少傾向。 ● アンケート結果においても、町内の観光スポットの認知度はそれほど高くなく、主な観光スポットである大山崎山荘美術館（35.6%）、天王山頂・山崎城跡（34.0%）でさえ約3割半ばにとどまっている。 ● 地域の観光資源を活かしきれていない状況がうかがわれるが、本町の観光は成長の余地が大きいと考えられる。 ● 観光振興により訪問者を拡大して町の魅力を知ってもらい、まちのにぎわいや定住者の増大に結びつけ、まちの活力を回復・向上することが重要と考えられる。
<p>課題4 人口減少時代の到来。できるだけ早く出生率を高めて人口減少に歯止めをかける</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1万6千人台を頂点に長期的に減少し、平成26年（2014年）で、4人に1人以上が65歳以上となる本格的な高齢社会を迎えている。 ● 人口減少は、税収減による行政サービス水準の低下を招く恐れがある。人口減 	<p>課題4については、削除 *課題4の内容は「■課題」の本文中へ反映させる。</p>

素 案	修 正 案																		
<p>少とそれに伴う経済・産業活動の縮小によって、税収入は減少する一方で、高齢化の進行から社会保障費の増加が見込まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いますぐに出生率が回復したとしても、経済・産業活動に影響を与える生産年齢に影響するのは15年以上先になる。 ● できるだけ早く、交流人口拡大によるまちの活力の回復・向上を実現し、若い世代の転出を抑制して、人口減少に歯止めをかけることが必要である。 	<p>課題と視点の並びについて</p> <p>〈課 題〉</p> <table border="0"> <tr> <td>【事務局案】</td> <td>【委員提案】</td> </tr> <tr> <td>①大山崎ぐらし</td> <td>①出産・子育て</td> </tr> <tr> <td>②交流人口</td> <td>②大山崎ぐらし</td> </tr> <tr> <td>③出産・子育て</td> <td>③交流人口</td> </tr> </table> <p>〈視 点〉</p> <table border="0"> <tr> <td>【事務局案】</td> <td>【委員提案】</td> </tr> <tr> <td>①安心して活力あるまち</td> <td>①いつまでも住んでもらう</td> </tr> <tr> <td>②いつまでも住んでもらう</td> <td>②大人になっても住んでもらう</td> </tr> <tr> <td>③大人になっても住んでもらう</td> <td>③安心して活力あるまち</td> </tr> <tr> <td>④多くの人に来て</td> <td>④多くの人に来て</td> </tr> </table>	【事務局案】	【委員提案】	①大山崎ぐらし	①出産・子育て	②交流人口	②大山崎ぐらし	③出産・子育て	③交流人口	【事務局案】	【委員提案】	①安心して活力あるまち	①いつまでも住んでもらう	②いつまでも住んでもらう	②大人になっても住んでもらう	③大人になっても住んでもらう	③安心して活力あるまち	④多くの人に来て	④多くの人に来て
【事務局案】	【委員提案】																		
①大山崎ぐらし	①出産・子育て																		
②交流人口	②大山崎ぐらし																		
③出産・子育て	③交流人口																		
【事務局案】	【委員提案】																		
①安心して活力あるまち	①いつまでも住んでもらう																		
②いつまでも住んでもらう	②大人になっても住んでもらう																		
③大人になっても住んでもらう	③安心して活力あるまち																		
④多くの人に来て	④多くの人に来て																		

素 案	修 正 案
<p>第1章 大山崎町総合戦略</p> <p>■総合戦略の視点</p> <p>視点1 住んでる人にいつまでも住んでもらう</p> <p>本町に住んでいる全ての人定住するよう日常生活の快適さを向上し、若い世代が希望をもって生きることができようにする。</p> <p>視点2 多くの人に来て、見て、知ってもらい、住んでもらう</p> <p>本町へ訪問する人を増やし、定住に結びつけるとともに、交流人口を拡大してにぎわいのあるまちにする。</p> <p>視点3 子どもが大人になっても住んでもらう</p> <p>本町の子どもが成長して町内に住み続けるよう定住意識を高めるとともに、将来、転出した場合でも、戻りたいときにいつでも戻りたくなるような魅力あるまちにする。</p> <p>視点4 長く住んでもらえるよう安心して活力あるまちをつくる</p> <p>多くの人に長く住んでもらえるよう、安心なくらしを守り、本町の住民にあった質の高い暮らしを創出し、活力あるまちにする。</p>	<p>第1章 大山崎町総合戦略</p> <p>■総合戦略の視点</p> <p>視点1 長く住んでもらえるよう安心して活力あるまちをつくる</p> <p>多くの人に長く住んでもらえるよう、安心なくらしを守り、本町の住民にあった質の高い暮らしを創出し、活力あるまちにする。</p> <p>視点2 住んでる人にいつまでも住んでもらう</p> <p>本町に住んでいる全ての人定住するよう日常生活の快適さを向上し、若い世代が希望をもって生きることができようにする。</p> <p>視点3 子どもが大人になっても住んでもらう</p> <p>本町の子どもが成長して町内に住み続けるよう定住意識を高めるとともに、将来、転出した場合でも、戻りたいときにいつでも戻りたくなるような魅力あるまちにする。</p> <p>視点4 多くの人に来て、見て、知ってもらい、住んでもらう</p> <p>本町へ訪問する人を増やし、定住に結びつけるとともに、交流人口を拡大してにぎわいのあるまちにする。</p> <p>【P17～18】</p> <p>■総合戦略の全体像を追加（基本目標等について一覧形式で表示）</p>

【総合戦略 第1章 大山崎町総合戦略】

基本目標1 大山崎町への新しい人の流れをつくる

基本目標1 安心な暮らしを守り、利便性の高い生活を確保する

素 案	修 正 案
<p>(1) 基本目標</p> <p>本町に関わりのある人（大山崎町における在勤者等）、また、大都市圏在住の地方移住希望者に大山崎町の魅力を伝え、訪れてもらい、知ってもらうことを通じて、定住につなげるよう取り組む。</p> <p>また、本町にある観光資源を活かして、観光ボランティア等の住民、観光施設等の関係機関と連携して、地域が一体となって交流人口を拡大するよう取り組む。</p> <p>これらの取り組みを通じて、新しい人の流れをつくり、本町の活力を回復し、向上させる。</p>	<p>(1) 基本目標</p> <p>本町は京都市や大阪市などの都市圏へのアクセスがよい地域に位置しながら、天王山など自然が豊かなベッドタウンである。そうした本町の魅力が評価される一方、日常的な買い物の不便さや町内における交通インフラなどアメニティ不足が指摘されている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、住んでよし、働いてよし、訪れてよしが実感できる「大山崎ぐらし」の更なる深化をめざして、高齢になってもいつまでも安心できる暮らしの確保、交通インフラなどの都市基盤の整備によるアメニティ不足の解消、及び住環境の整備を通じて、生活圏の利便性が向上するよう取り組む。</p> <p>また、地域コミュニティの絆を結ぶ地域が一体となった交流イベントや活動の促進を通じて、住民主体による地域づくりに取り組む。</p>
<p>(2) 基本的方向</p> <p>○ <u>全国移住ナビなどへの移住促進情報の発信や、在勤者に向けた移住促進情報の発信など新たな定住者希望者を発掘するとともに、定住のための総合的な相談体制を整備し、定住者の拡大に取り組む。</u></p> <p>○ <u>地域の観光資源や文化財等を活用して交流人口を拡大するため、推進体制を整備して、観光資源のブランド化に取り組み観光振興の推進を図る。</u></p>	<p>(2) 基本的方向</p> <p>○ <u>すべての人の安心・安全が確保された地域づくり、都市基盤整備によるアメニティ不足の解消、空き家等の既存ストックの活用を通じて定住者の拡大を図り、「大山崎ぐらし」の維持向上に取り組む。</u></p> <p>○ <u>地域が一体となった交流イベントやスポーツ大会等の開催による地域づくりに取り組む。</u></p>

素 案		修 正 案																										
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標		(3) 具体的な施策と重要業績評価指標																										
①大山崎町への定住の推進		施策①「大山崎ぐらし」の維持向上																										
<p>転入・転出の地域分析やアンケート調査結果から定住の可能性の高いと思われる人に対して、重点的に住みやすさや魅力を情報発信して定住者を発掘する。また、在勤者には本町の各種行事への参加や町施設利用を促進して定住に結びつける。</p> <p>また、定住希望者の視点に立って相談機能を強化し、定住希望者がスムーズに移住できるよう相談から物件案内や事業者の紹介など切れ目のない支援を実施する。</p>		<p>安心・安全にくらせるよう、自助・共助・公助による地域づくりを推進するとともに、自主防災組織の充実など、住民主体の地域の防災力や防犯力を強化する。</p> <p>また、生活圏の利便性を向上させるため、大山崎町都市計画マスタープランにおける都市拠点の形成をめざして、都市基盤の整備を進めアメニティ不足の解消や住宅団地などの既存の資源の有効活用を推進する。</p>																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体的な施策</th> <th>重要業績指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">移住希望者発掘の推進</td> <td>○ 在勤者への情報発信の強化と町内の施設利用の促進</td> <td>○ 在勤者の施設利用の拡大</td> </tr> <tr> <td>○ 大都市圏や近隣都市の潜在的移住者への情報発信の推進</td> <td>○ 移住・交流情報ガーデン*を通じた相談件数 *国が開設する地方への移住関連情報の提供・相談支援の一元的な窓口</td> </tr> <tr> <td>定住希望者のための相談機能の強化</td> <td>○ 相談窓口の設置</td> <td>○ 総合相談窓口の設置</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な施策		重要業績指標	移住希望者発掘の推進	○ 在勤者への情報発信の強化と町内の施設利用の促進	○ 在勤者の施設利用の拡大	○ 大都市圏や近隣都市の潜在的移住者への情報発信の推進	○ 移住・交流情報ガーデン*を通じた相談件数 *国が開設する地方への移住関連情報の提供・相談支援の一元的な窓口	定住希望者のための相談機能の強化	○ 相談窓口の設置	○ 総合相談窓口の設置	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">重要業績評価指標</td> <td>社会福祉協議会ボランティア登録人数 352人</td> <td>338人 (H26)</td> </tr> <tr> <td>町防災・防犯情報メール登録者数 2,575人</td> <td>1,200人 (H26)</td> </tr> <tr> <td>自主防災組織の結成数 53団体</td> <td>30団体 (H26)</td> </tr> <tr> <td>「生活用道路の安全・快適さ」の満足度 29.0%</td> <td>12.0% (H26)</td> </tr> <tr> <td>空き家率の抑制</td> <td>12.6% (二次的住宅を除く率 9.8%) (H25)</td> </tr> </tbody> </table>			目標値	基準値	重要業績評価指標	社会福祉協議会ボランティア登録人数 352人	338人 (H26)	町防災・防犯情報メール登録者数 2,575人	1,200人 (H26)	自主防災組織の結成数 53団体	30団体 (H26)	「生活用道路の安全・快適さ」の満足度 29.0%	12.0% (H26)	空き家率の抑制	12.6% (二次的住宅を除く率 9.8%) (H25)
具体的な施策		重要業績指標																										
移住希望者発掘の推進	○ 在勤者への情報発信の強化と町内の施設利用の促進	○ 在勤者の施設利用の拡大																										
	○ 大都市圏や近隣都市の潜在的移住者への情報発信の推進	○ 移住・交流情報ガーデン*を通じた相談件数 *国が開設する地方への移住関連情報の提供・相談支援の一元的な窓口																										
定住希望者のための相談機能の強化	○ 相談窓口の設置	○ 総合相談窓口の設置																										
	目標値	基準値																										
重要業績評価指標	社会福祉協議会ボランティア登録人数 352人	338人 (H26)																										
	町防災・防犯情報メール登録者数 2,575人	1,200人 (H26)																										
	自主防災組織の結成数 53団体	30団体 (H26)																										
	「生活用道路の安全・快適さ」の満足度 29.0%	12.0% (H26)																										
	空き家率の抑制	12.6% (二次的住宅を除く率 9.8%) (H25)																										

素 案	修 正 案										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="1131 202 2078 252">主な取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1131 253 1476 352">自助・共助・公助による地域づくりの推進</td> <td data-bbox="1478 253 2078 352">○ 住民の地域福祉活動への参加の促進</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1131 354 1476 453">住民主体の地域防災力・防犯力の強化の推進</td> <td data-bbox="1478 354 2078 453">○ 災害に対する「自助」「共助」「公助」の重層的な危機管理体制の整備</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1131 454 1476 643">アメニティ不足解消の推進</td> <td data-bbox="1478 454 2078 643">○ 将来都市構造の構築 「生活拠点（まちのエントランス）」「新生活拠点」「シビックゾーン」「観光・交流拠点」「広域交通活用ゾーン」の形成</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1131 644 1476 743">既存ストックのマネジメント強化</td> <td data-bbox="1478 644 2078 743">○ 空き家の対策の推進</td> </tr> </tbody> </table>	主な取り組み内容		自助・共助・公助による地域づくりの推進	○ 住民の地域福祉活動への参加の促進	住民主体の地域防災力・防犯力の強化の推進	○ 災害に対する「自助」「共助」「公助」の重層的な危機管理体制の整備	アメニティ不足解消の推進	○ 将来都市構造の構築 「生活拠点（まちのエントランス）」「新生活拠点」「シビックゾーン」「観光・交流拠点」「広域交通活用ゾーン」の形成	既存ストックのマネジメント強化	○ 空き家の対策の推進
主な取り組み内容											
自助・共助・公助による地域づくりの推進	○ 住民の地域福祉活動への参加の促進										
住民主体の地域防災力・防犯力の強化の推進	○ 災害に対する「自助」「共助」「公助」の重層的な危機管理体制の整備										
アメニティ不足解消の推進	○ 将来都市構造の構築 「生活拠点（まちのエントランス）」「新生活拠点」「シビックゾーン」「観光・交流拠点」「広域交通活用ゾーン」の形成										
既存ストックのマネジメント強化	○ 空き家の対策の推進										
<p>②観光資源の発掘・創造から観光資産への促進</p> <p>豊富にある観光資源を見つめ直し、歴史と芸術をテーマに町域全体をミュージアムに見立てるなど、観光資源の新たな発掘・創造とブランド化により「観光資源」を「観光資産」まで高める。そして、ソーシャルネットワークや Web など多様な媒体を活用して町内外に情報発信する。</p> <p>観光客の誘致に向けては乙訓八幡広域観光連絡協議会や京都府山城広域振興局等を通じて他市町村との連携を深め、新たな観光ルートや観光テーマを模索し、「広域マップ」（「ぶらり京乙訓・八幡」「やましろ観光広域マップ」等）に反映する。また、観光をテーマで連携できる自治体と新たな観光のあり方（「利休の路」など観光ルートのストーリー化）や情報発信の方法を検討するなど新たな広域観光を促進する。</p>	<p>施策②地域交流イベントやスポーツ交流による地域づくりの推進</p> <p>住民意識調査の「10年後の大山崎町の将来像」について“文化活動やスポーツ活動が盛んなまち”と答えた小中学生が約20%あり、これまで開催されてきたフェンシング大会などのスポーツ交流をさらに充実するなど、天王山をはじめとする町内資源や施設を活用した様々な文化交流やスポーツ交流による住民主体の地域づくりを推進する。</p>										

素 案			修 正 案							
<p>これらの観光振興にあたっては、観光ボランティアや町内で現在自主的にまちおこし活動を実施している住民と連携して、地域で観光振興ができるよう推進する。</p>										
具体的な施策		重要業績指標		目標値	基準値					
観光資源の発掘・創造のまちづくり	○ 観光振興の推進体制の整備	○ 観光協会の設立	重要業績評価指標	「町内の交流活動」の満足度 13.5%	9.5% (H26)					
	○ 観光資源の見直しと情報発信力の強化	○ 町ホームページの観光情報へのアクセス件数 (月平均) 1,600件 (平成26年900件)		町体育館利用者の拡大	55,331人 (H26)					
	○ インバウンドを見据えた観光の振興	○ 外国人宿泊者数 28人 (平成25年 17人)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">主な取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域交流イベントで絆を結ぶまちづくり</td> <td>○ 住民主体に地域交流イベント事業の推進</td> </tr> <tr> <td>スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり</td> <td>○ 全国規模の大会誘致の促進</td> </tr> </tbody> </table>			主な取り組み内容		地域交流イベントで絆を結ぶまちづくり	○ 住民主体に地域交流イベント事業の推進	スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり
主な取り組み内容										
地域交流イベントで絆を結ぶまちづくり	○ 住民主体に地域交流イベント事業の推進									
スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり	○ 全国規模の大会誘致の促進									
広域観光によるにぎわいづくり	○ 近隣市町村と連携し観光振興を促進	○ 新たな回遊ルートの設置 (平成25年 3ルート) ○ 広域連携観光参加者の拡大 ○ 大河ドラマ誘致署名数 5,000人 ○ 観光バス駐車利用台数								

素 案			修 正 案
		19.3 台 (平成26年 16.3台)	
	○ 歴史資料館の情報 発信の強化	○ 歴史資料館入館数 11,500 人 (平成 26 年 9,775 人)	
歴史遺産の輝くま ちづくり	○ 歴史の学びの推進	○ 歴史関連講座受講者の 拡大	

基本目標2 活力の回復・向上を担う人を育成する

素 案	修 正 案
<p>(1) 基本目標</p> <p>地域の多様な子育てニーズに対応できるよう保育サービスを充実するとともに、若い世代が子どもを安心して産み育てられることができるよう地域全体で子育て家庭に対する支援の輪（ネットワーク）づくりや子育て支援の充実に取り組む。</p> <p>また、活力の回復・向上を担う次世代の人を育成するため、「生きる力」を育みつつ、生まれ育ったまちに誇りと魅力を感じることができるよう教育環境の充実に取り組む。</p> <p>これらの取り組みを通じて、活力の回復・向上を担う人を育成し、親の世代だけでなく、子どもが成長して次世代にわたって定住していけるように取り組む。</p>	<p>(1) 基本目標</p> <p>同 左</p>
<p>(2) 基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>子育て支援ネットワークをより充実させ、多様な保育サービスを確保し、若い世代が安心して出産、子育てでき、定住していけるよう取り組む。</u> ○ <u>子育て家庭の経済的負担の軽減をするため、各種手当制度の普及・啓発の推進を図り、安心して子どもを生み育てられる、ゆとりある家庭環境づくりに取り組む。</u> ○ <u>保幼小連携教育の充実により小学校への円滑な接続を図るとともに、少人数教育や小中連携教育の充実による学力の向上に取り組む。</u> ○ <u>地域の子育て力の向上を図り、地域連携による「子育て力」を向上するため、子育てをする家庭や子どもたちを地域で支えていく地域ぐるみのネットワークを推進する。</u> 	<p>(2) 基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>子育て家庭の経済的負担の軽減をするため、各種手当制度の普及・啓発の推進を図り、安心して子どもを生み育てられ、定住していけるよう出産・子育てがかなう環境づくりに取り組む。</u> ○ <u>きめ細かな教育を進める少人数教育の実践、学校の教育力の向上、地域連携等を通じて、児童生徒の学力向上と生きる力を育む教育環境づくりに取り組む。</u>

素 案		修 正 案																	
○ <u>子どもが成長し、大人になっても定住できるよう、職場体験や本町を知るための学習等を通じて、大山崎町の魅力を子どもたちに伝えることに取り組む。</u>																			
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標		(3) 具体的な施策と重要業績評価指標																	
①出産・子育てがかなう環境づくり <u>安心して出産・子育てができるよう切れ目のない支援を実施する。特に、子育て家庭の出産・育児に係る経済的負担の軽減を図るため、子育て支援医療費の助成制度をはじめ不妊治療給付助成制度や妊婦健康診査公費負担制度の充実と広報啓発の推進を図る。</u> <u>また、保護者の就業形態や就業時間の多様化に応じて、延長保育の保育時間拡充や一時預かりの推進、病児・病後児保育の利用者への助成、認可外保育所の運営への補助を実施する。</u> <u>現在町内で開催されている子育て世代のフリーマーケットのような保護者同士の交流機会を強化促進して、地域全体で子育て家庭に対する支援の輪を広げ、子育て支援ネットワークの充実を促進する。子育て支援センター（ゆめほっぺ）の利用者の増加とセンターを媒介にしたサークルや団体間のつながりづくりを支援して、住民参加の子育て支援環境を充実する。</u>		施策①出産・子育てがかなう環境づくり <u>「子育てするなら大山崎」との子育て世代からの評価を深化するため、若い世代が安心して出産・子育てができるよう切れ目のない出産・育児の支援、ときめ細かな広報啓発活動を推進し、子どもを安心して産み育てられる環境の充実に取り組む。</u> <u>また、保護者の就業形態や就業時間の多様化に応じた安心・安全な保育サービスの充実を図る。</u> <u>さらに、町内で開催されている子育て世代のフリーマーケットのような交流機会の活性化を促進して、地域全体で子育て家庭に対する支援の輪を広げ、子ども達が健やかに育つ子育て交流の促進を図る。</u>																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体的な施策</th> <th>重要業績指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">子どもを安心して 生み育てられる環 境の充実</td> <td>○ 妊婦健康診査の推 進</td> <td>○ 検診率（100%）維持</td> </tr> <tr> <td>○ 乳児家庭全戸訪問 事業の推進</td> <td>○ 訪問率（100%）維持</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な施策		重要業績指標	子どもを安心して 生み育てられる環 境の充実	○ 妊婦健康診査の推 進	○ 検診率（100%）維持	○ 乳児家庭全戸訪問 事業の推進	○ 訪問率（100%）維持	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重要業績評価 指標</td> <td>出生数全体に占める第3子以降の 割合 18%</td> <td>17.4%(H26)</td> </tr> <tr> <td>妊婦健康診査の検診率（100%）維 持</td> <td>100%(H26)</td> </tr> </tbody> </table>			目標値	基準値	重要業績評価 指標	出生数全体に占める第3子以降の 割合 18%	17.4%(H26)	妊婦健康診査の検診率（100%）維 持	100%(H26)
具体的な施策		重要業績指標																	
子どもを安心して 生み育てられる環 境の充実	○ 妊婦健康診査の推 進	○ 検診率（100%）維持																	
	○ 乳児家庭全戸訪問 事業の推進	○ 訪問率（100%）維持																	
	目標値	基準値																	
重要業績評価 指標	出生数全体に占める第3子以降の 割合 18%	17.4%(H26)																	
	妊婦健康診査の検診率（100%）維 持	100%(H26)																	

素 案			修 正 案		
安心・安全な保育サービスの充実	○ 延長保育の提供体制の推進	○ 利用者数 65人 (平成26年68人)		乳児家庭全戸訪問事業の訪問率 (100%)維持	100%(H26)
	○ 一時預かり保育の提供体制の推進	○ 利用者数 15,600人日 (幼稚園)2,624人日 (幼稚園以外)		延長保育の利用者数 65人	68人(H26)
	○ 病児・病後児保育の提供体制の推進	○ 利用者数 780人		一時預かり保育の利用者数 15,600人日(幼稚園) 2,624人日(幼稚園以外)	-
健やかに育つ子育て交流の促進	○ 子育て援助活動の支援	○ ファミリー・サポート・センター提供会員数 25人 (平成26年11人)		病児・病後児保育の利用者数 780人	-
	○ 子育てサークル・団体への活動支援	○ 子育て支援団体数 6団体		ファミリー・サポート・センター提供会員数 25人	11人(H26)
			主な取り組み内容		
			子どもを安心して生み育てられる環境の充実	○ 児童手当の支給	
				○ 児童育成手当の支給	
				○ 不妊治療給付助成の充実	
				○ 妊婦健康診査の推進	
				○ 乳児家庭全戸訪問事業の推進	
安心・安全な保育サービスの充実				○ 延長保育の提供体制の推進	
				○ 一時預かり保育の提供体制の推進	
				○ 病児・病後児保育の提供体制の推進	
				○ 認可外保育所への支援	
健やかに育つ子育て交流の促進				○ 子育て援助活動の支援	
				○ 子育て支援センター(ゆめほっぺ)の広報啓発	

素 案		修 正 案																							
		○ 子育てサークル・団体への活動支援																							
<p>②「生きる力」をはぐくむ教育環境づくり</p> <p>学力や生きる力を育むための教育環境を充実する。学校教育においては、<u>少人数授業やティーム・ティーチング、指導方法の工夫（ICTの活用など）を通じて、基礎学力の向上を図るとともに、総合的な学習の時間などを活用した多様な体験活動を積極的に取り入れ、児童・生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育を推進する。</u></p> <p>また、子ども自身が主体的・自律的に考え行動する力を養うとともに、<u>人間性豊かな人格の形成が図られるよう教育を充実するとともに、職場体験学習やふるさと学習を通じて、本町の歴史や魅力を伝える。</u></p> <p>そして、<u>子ども会やスポーツ少年団の連携支援を通じて、地域の「子育て力」を強化するとともに、いじめのない学校・地域づくりに取り組む。</u></p>		<p>施策②学力向上と生きる力を育む教育環境づくり</p> <p>本町の教育環境の特性を活かした保育所、幼稚園、小学校、中学校の連携による就学前児童からの一貫した教育支援により子ども達の学力向上と生きる力を育む。</p> <p>学校教育においては、<u>少人数教育により基礎学力の向上を図るとともに、児童・生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすため、学校の教育力の向上に取り組む。</u></p> <p>また、子ども自身が主体的・自律的に考え行動する力を養うとともに、<u>人間性豊かな人格の形成が図られるよう、総合的な学習の時間などを活用した多様な体験活動を積極的に取り入れ、職場体験学習やふるさと学習などを通じて、生きる力の醸成に取り組む。</u></p> <p>そして、<u>子ども会やスポーツ少年団の連携支援や主体的な生涯学習の支援を通じて、家庭・学校・地域による「子育て力」の強化を支援する。</u></p>																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体的な施策</th> <th>重要業績指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">児童・生徒の学びの支援</td> <td>○ 保育所・幼稚園の連携と交流の推進</td> <td>○ 連携・交流事業の拡大</td> </tr> <tr> <td>○ 学力向上対策事業の推進</td> <td>○ 学力診断テストの正答率の向上</td> </tr> <tr> <td>○ 小学校におけるICT活用授業の推進</td> <td>○ 普通教室の半数に1台のICT機器の整備</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な施策		重要業績指標	児童・生徒の学びの支援	○ 保育所・幼稚園の連携と交流の推進	○ 連携・交流事業の拡大	○ 学力向上対策事業の推進	○ 学力診断テストの正答率の向上	○ 小学校におけるICT活用授業の推進	○ 普通教室の半数に1台のICT機器の整備	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">重要業績評価指標</td> <td>学力診断テストの正答率の向上</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>普通教室の半数に1台のICT機器の整備</td> <td>普通教室数 51室(H26)</td> </tr> <tr> <td>体験活動・学習の協力事業所の拡大</td> <td>事業所数 21箇所(H26)</td> </tr> <tr> <td>子ども会ネットワークの設置</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			目標値	基準値	重要業績評価指標	学力診断テストの正答率の向上	-	普通教室の半数に1台のICT機器の整備	普通教室数 51室(H26)	体験活動・学習の協力事業所の拡大	事業所数 21箇所(H26)	子ども会ネットワークの設置	-
具体的な施策		重要業績指標																							
児童・生徒の学びの支援	○ 保育所・幼稚園の連携と交流の推進	○ 連携・交流事業の拡大																							
	○ 学力向上対策事業の推進	○ 学力診断テストの正答率の向上																							
	○ 小学校におけるICT活用授業の推進	○ 普通教室の半数に1台のICT機器の整備																							
	目標値	基準値																							
重要業績評価指標	学力診断テストの正答率の向上	-																							
	普通教室の半数に1台のICT機器の整備	普通教室数 51室(H26)																							
	体験活動・学習の協力事業所の拡大	事業所数 21箇所(H26)																							
	子ども会ネットワークの設置	-																							

素 案			修 正 案																
児童・生徒の生きる力の支援	○ 体験活動・学習の推進	○ 協力事業所の拡大	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">主な取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">児童の学びの支援</td> <td>○ 保育所・幼稚園の連携と交流の推進</td> </tr> <tr> <td>○ 保幼小連携教育の充実</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">学校の教育力の向上</td> <td>○ 学校の指導力の向上と教育環境の整備</td> </tr> <tr> <td>○ 学力向上対策事業の推進</td> </tr> <tr> <td>○ 小学校におけるICT活用授業の推進</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">生きる力の支援</td> <td>○ 体験活動・学習の推進</td> </tr> <tr> <td>○ 次世代・文化継承発展事業の推進</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">家庭・学校・地域の連携による「子育て力づくり」の支援</td> <td>○ 子ども会ネットワーク等の創出</td> </tr> <tr> <td>○ 生涯学習の推進 社会教育事業、公民館事業、文化財保護事業等の推進</td> </tr> </tbody> </table>		主な取り組み内容		児童の学びの支援	○ 保育所・幼稚園の連携と交流の推進	○ 保幼小連携教育の充実	学校の教育力の向上	○ 学校の指導力の向上と教育環境の整備	○ 学力向上対策事業の推進	○ 小学校におけるICT活用授業の推進	生きる力の支援	○ 体験活動・学習の推進	○ 次世代・文化継承発展事業の推進	家庭・学校・地域の連携による「子育て力づくり」の支援	○ 子ども会ネットワーク等の創出	○ 生涯学習の推進 社会教育事業、公民館事業、文化財保護事業等の推進
主な取り組み内容																			
児童の学びの支援	○ 保育所・幼稚園の連携と交流の推進																		
	○ 保幼小連携教育の充実																		
学校の教育力の向上	○ 学校の指導力の向上と教育環境の整備																		
	○ 学力向上対策事業の推進																		
	○ 小学校におけるICT活用授業の推進																		
生きる力の支援	○ 体験活動・学習の推進																		
	○ 次世代・文化継承発展事業の推進																		
家庭・学校・地域の連携による「子育て力づくり」の支援	○ 子ども会ネットワーク等の創出																		
	○ 生涯学習の推進 社会教育事業、公民館事業、文化財保護事業等の推進																		
家庭・学校・地域の連携による「子育て力づくり」の支援	○ 子ども会ネットワークの創出	○ ネットワーク会議の設置																	

基本目標 3 安心な暮らしを守り、利便性の高い生活を確保する

基本目標 3 大山崎町への新しい人の流れをつくる

素 案	修 正 案
<p>(1) 基本目標</p> <p><u>本町の住民のライフスタイルにあった質の高い暮らし(「大山崎ぐらし」)を創出する。本町は京都市や大阪市などの都市圏へのアクセスがよい地域に位置しながら、天王山など自然が豊かなめずらしい地域である。そうした本町の魅力が評価される一方、日常的な買い物の不便さや町内における交通インフラなどアメニティ不足が指摘されている。</u></p> <p><u>こうした状況を踏まえ、住んでよし、働いてよし、訪れてよしを実感できる「大山崎ぐらし」の創出をめざして、高齢になってもいつまでも安心できるくらしの確保、交通インフラなどの都市基盤の整備、及び住環境の整備を通じて、生活圏の利便性が向上するよう取り組む。</u></p> <p><u>また、地域コミュニティの絆を結ぶ地域が一体となった交流イベントや活動の促進を通じて、住民主体による地域づくりに取り組む。</u></p>	<p>(1) 基本目標</p> <p><u>本町に関わりのある人(大山崎町における在勤者等)、また、大都市圏在住の地方移住希望者に大山崎町の魅力を伝え、訪れてもらい、知ってもらうことを通じて、定住につなげるよう取り組む。</u></p> <p><u>また、本町にある観光資源を活かして、観光ボランティア等の住民、観光施設等の関係機関と連携して、地域が一体となって「おもてなし」の気運を高め交流人口を拡大するよう取り組む。</u></p>
<p>(2) 基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>すべての人の安心・安全が確保された地域づくりに取り組む。</u> ○ <u>都市基盤整備によりアメニティ不足を解消する。</u> ○ <u>空き家等の既存ストックを活用し、定住者の拡大を図る。</u> <u>地域が一体となった交流イベントやスポーツ大会等の開催による地域づくりに取り組む。</u> 	<p>(2) 基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>移住促進情報の発信など新たな定住者希望者を発掘するとともに、定住のための総合的な相談体制を整備し、定住者の拡大に取り組む。</u> ○ <u>地域の観光資源や文化財等を活用して交流人口を拡大するため、推進体制を整備して、観光振興の推進を図る。</u>

素 案			修 正 案		
(3) 具体的な施策と重要業績評価指標			(3) 具体的な施策と重要業績評価指標		
①「大山崎ぐらし」の維持向上 安心・安全にらせるよう、自助・共助・公助による地域づくりを推進するとともに、自主防災組織の充実など、住民主体の地域の防災力や防犯力を強化する。 また、生活圏の利便性を向上させるため、住宅団地などの既存の資源の有効活用や、大山崎町都市計画マスタープランにおける都市拠点の形成をめざして、都市基盤整備を推進する。			施策①大山崎町への定住の推進 転入・転出の地域分析やアンケート調査結果から定住の可能性の高いと思われる人や地域に対して、重点的に住みやすさや魅力を情報発信し、また、全国移住ナビなどへの移住促進情報を発信して定住者の発掘を推進する。 また、定住希望者の視点に立って、定住希望者がスムーズに移住できるよう相談から物件案内や事業者の紹介など切れ目のない支援を実施するため、相談機能を強化する。		
具体的な施策		重要業績指標	目標値		基準値
自助・共助・公助による地域づくりの推進	○ 住民の地域福祉活動への参加の促進	○ 社会福祉協議会ボランティア登録人数 352人 (平成 26 年度 338 人)	重要業績評価指標	町外在住者が参加できる事業の拡充による在勤者の施設利用の拡大	-
住民主体の地域防災力・防犯力の強化の推進	○ 災害に対する「自助」「共助」「公助」の重層的な危機管理体制の整備	○ 町防災・防犯情報メール登録者数 2,575 人 (平成 26 年度 1,200 人) ○ 自主防災組織の結成数 53 団体 (平成 26 年度 30 団体)		定住相談件数の拡大 移住・交流情報ガーデン*を通じた相談件数を含む	-
既存ストックの活用	○ 空き家の対策の推進	○ 空き家率 (平成 25 年)		定住総合相談窓口の設置	-
*国が開設する地方への移住関連情報の提供・相談支援の一元的な窓口					
主な取り組み内容					
移住希望者発掘の推進		○ 在勤者への情報発信の強化と町内の施設利用の促進 ○ 大都市圏や近隣都市の潜在的移住者への情報発信の推進			
定住希望者のための相談機能の強化		○ 定住希望者のための相談機能の強化			

素 案			修 正 案
ネジメント強化	進	12.6% (二次的住宅を除く率 9.8%))	
アメニティ不足解消の推進	○ 将来都市構造の構築 「生活拠点(まちのエントランス)」「新生活拠点」「シビックゾーン」「観光・交流拠点」「広域交通活用ゾーン」の形成	○ 「生活用道路の安全・快適さ」の満足度の向上 (平成26年:12.0%→ 29.0%)	

素 案		修 正 案																												
<p>②地域交流イベントやスポーツ交流による地域づくりの推進</p> <p>住民意識調査の「10年後の大山崎町の将来像」について“文化活動やスポーツ活動が盛んなまち”と答えた小中学生が約 20%あり、これまで開催されてきたフェンシング大会などのスポーツ交流をさらに充実するなど、天王山をはじめとする町内資源や施設を活用した様々なスポーツ交流や文化交流による住民主体の地域づくりを推進する。</p>		<p>施策②観光資源の発掘・創造から観光資産への促進</p> <p>既存の観光資源を見つめ直し、観光ボランティアや町内で現在自主的にまちおこし活動を実施している住民と連携して、観光資源の新たな発掘・創造により「観光資源」を「観光資産」まで高めることを通じて協働によるまちづくりを推進する。</p> <p>観光客の誘致に向けては他市町との連携を深め、新たな観光ルートや観光テーマを模索し、広域観光による賑わいづくり地域経済の活性化を図る。</p> <p>住民が本町の歴史遺産を学び、誇りをもつことを通じて、歴史遺産の輝くまちづくりを推進する。</p>																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体的な施策</th> <th>重要業績指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域交流イベントで絆を結ぶちづくり</td> <td>○ 住民主体に地域交流イベント事業の推進</td> <td>○ 「町内の交流活動」の満足度の向上 (平成 26 年 : 9.5% → 13.5%)</td> </tr> <tr> <td>スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり</td> <td>○ 全国規模の大会誘致の促進</td> <td>○ 大会参加者の拡大</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な施策		重要業績指標	地域交流イベントで絆を結ぶちづくり	○ 住民主体に地域交流イベント事業の推進	○ 「町内の交流活動」の満足度の向上 (平成 26 年 : 9.5% → 13.5%)	スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり	○ 全国規模の大会誘致の促進	○ 大会参加者の拡大	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">重要業績評価指標</td> <td>観光協会の設立</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>町ホームページの観光情報へのアクセス件数 (月平均) 1,600 件</td> <td>900 件 (H26)</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊者数の倍増</td> <td>17 人 (H25)</td> </tr> <tr> <td>広域連携観光参加者の拡大</td> <td>270 人(H26)</td> </tr> <tr> <td>新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映</td> <td>5 ルート* (H25)</td> </tr> <tr> <td>歴史資料館入館数 11,500 人</td> <td>9,775 人 (H26)</td> </tr> <tr> <td>観光バス駐車利用台数 19.3 台</td> <td>16.3 台 (H26)</td> </tr> </tbody> </table> <p>*京都府「京都やましろ観光」モデルコースにおける本町が関わりあるコース</p>			目標値	基準値	重要業績評価指標	観光協会の設立	-	町ホームページの観光情報へのアクセス件数 (月平均) 1,600 件	900 件 (H26)	外国人宿泊者数の倍増	17 人 (H25)	広域連携観光参加者の拡大	270 人(H26)	新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映	5 ルート* (H25)	歴史資料館入館数 11,500 人	9,775 人 (H26)	観光バス駐車利用台数 19.3 台	16.3 台 (H26)
具体的な施策		重要業績指標																												
地域交流イベントで絆を結ぶちづくり	○ 住民主体に地域交流イベント事業の推進	○ 「町内の交流活動」の満足度の向上 (平成 26 年 : 9.5% → 13.5%)																												
スポーツ交流で絆を結ぶまちづくり	○ 全国規模の大会誘致の促進	○ 大会参加者の拡大																												
	目標値	基準値																												
重要業績評価指標	観光協会の設立	-																												
	町ホームページの観光情報へのアクセス件数 (月平均) 1,600 件	900 件 (H26)																												
	外国人宿泊者数の倍増	17 人 (H25)																												
	広域連携観光参加者の拡大	270 人(H26)																												
	新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映	5 ルート* (H25)																												
	歴史資料館入館数 11,500 人	9,775 人 (H26)																												
観光バス駐車利用台数 19.3 台	16.3 台 (H26)																													

素 案	修 正 案								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="1144 252 2085 300">主な取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1144 300 1485 496">観光資源の発掘・創造のまちづくり</td> <td data-bbox="1485 300 2085 496"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観光振興の推進体制の整備 ○ 本町における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ インバウンドを見据えた観光の振興 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1144 496 1485 751">広域観光によるにぎわいづくり</td> <td data-bbox="1485 496 2085 751"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣市町と連携し観光振興を促進 ○ 広域における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ 歴史資料館の情報発信の強化 ○ 観光インフラの整備 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1144 751 1485 847">歴史遺産の輝くまちづくり</td> <td data-bbox="1485 751 2085 847"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の学びの推進 </td> </tr> </tbody> </table>	主な取り組み内容		観光資源の発掘・創造のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光振興の推進体制の整備 ○ 本町における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ インバウンドを見据えた観光の振興 	広域観光によるにぎわいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣市町と連携し観光振興を促進 ○ 広域における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ 歴史資料館の情報発信の強化 ○ 観光インフラの整備 	歴史遺産の輝くまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の学びの推進
主な取り組み内容									
観光資源の発掘・創造のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光振興の推進体制の整備 ○ 本町における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ インバウンドを見据えた観光の振興 								
広域観光によるにぎわいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣市町と連携し観光振興を促進 ○ 広域における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ 歴史資料館の情報発信の強化 ○ 観光インフラの整備 								
歴史遺産の輝くまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の学びの推進 								

基本目標 4 大山崎町における安定した雇用を創出する

素 案	修 正 案
<p>(1) 基本目標</p>	<p>(1) 基本目標</p>
<p><u>地元企業の交流や地域ブランドの創出などにより、地元産業や地域経済の活性化を図り、安定した雇用創出に取り組む。</u></p> <p>また、求職者への総合的な職業相談体制を充実させ、職業紹介まで切れ目のない支援に取り組む。</p>	<p><u>地元企業の交流や地域ブランドの創出などによる産業振興により、地元産業や地域経済の活性化を図り、安定した雇用創出に取り組む。</u></p> <p>また、求職者への総合的な職業相談体制を充実させ、職業紹介まで切れ目のない支援に取り組む。</p>
<p>(2) 基本的方向</p>	<p>(2) 基本的方向</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>地元企業の交流機会を促進して、町内の産業振興を図り、安定した雇用の確保に取り組む。</u> ○ <u>就労支援体制を充実し、京都府などの関連機関と連携して、求職相談者の雇用を確保する。</u> ○ <u>中小企業従事者の勤労者福祉の充実に取り組む。</u> ○ <u>産学連携などによる地域ブランドを創出し、地域経済の活性化に取り組む。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>地元企業の交流機会を促進して、町内の産業振興を図るとともに、就労支援体制や中小企業従事者の雇用・福利支援を充実し、関連機関と連携して安定した雇用の確保に取り組む。</u> ○ <u>産学連携などによる地域ブランドを創出し、地域経済の活性化に取り組む。</u> ○ <u>観光振興により地元企業を活性化し、雇用創出に取り組む。</u>
<p>(3) 具体的な施策と重要業績評価指標</p>	<p>(3) 具体的な施策と重要業績評価指標</p>
<p>①地元産業の活性化による雇用の確保</p> <p><u>就労支援体制を整備し、「京都ジョブパーク」(京都府)への斡旋や「京都ジョブパーク」の保有する情報の入手など、関連機関と連携した職業紹介に取り組む。</u></p> <p><u>乙訓勤労者福祉サービスセンター(「ピロティおとくに」)への中小企業の加入促進を通じて従業員の福利厚生を充実するとともに、地元中小への人材の確保を支援する。</u></p>	<p>施策①地元産業の活性化による雇用の確保</p> <p><u>就労支援体制を整備し、関連機関と連携した職業相談・紹介の充実に取り組む。</u></p> <p><u>また、関連機関を活用して、従業員の福利厚生を充実するとともに、地元中小企業への人材の確保を支援する。</u></p> <p><u>そして、地元企業の情報交換や連携の機会として各種のイベントや行事等への参画を促進して地元産業の活性化に取り組む。</u></p>

素 案			修 正 案		
<p>また、地元企業の情報交換や連携の機会として各種のイベントや行事等への参画を促進して地元産業の活性化に取り組む。</p>					
具体的な施策		重要業績指標	目標値		基準値
職業相談・職業紹介の充実	○ 京都府・関連機関と連携した職業相談・職業紹介の充実	○ 相談件数 ○ 職業紹介件数	重要業績評価指標	「乙訓勤労者福祉サービスセンター」加入数 2,858 人	2,245 人 (H26)
中小企業従事者の雇用・福利支援	○ 中小企業従業員の勤労者福祉の向上	○ 「乙訓勤労者福祉サービスセンター」加入数 2,858 人 (平成 26 年度末 2,245 人)		町内イベント事業等への参加事業所の拡大	-
地元企業の交流づくり	○ 町内イベント事業等への参画の促進	○参加事業所の拡大	<p>主な取り組み内容</p>		
			職業相談・職業紹介の充実	○ 京都府・関連機関（「京都ジョブパーク」等）と連携した職業相談・職業紹介の充実	
			中小企業従事者の雇用・福利支援	○ 中小企業従業員の勤労者福祉の向上 ※乙訓勤労者福祉サービスセンター（「ピロティおとくに」）への中小企業の加入促進等	
			地元企業の交流づくり	○ 町内イベント事業等への参加事業所の推進	

素 案		修 正 案																		
<p>②地域ブランドの創出による地域経済の活性化</p> <p>町内事業所と住民や大学との連携による特産品開発や既存の特産品（「天王山しぐれ」など）を活用した新しいレシピや加工品を考案して、地域ブランドを創出するとともに、町内外に地域ブランドをPRし消費需要を喚起して、地域経済を活性化する。</p> <p>また、地元農産物の販売所を維持・発展させて、地産地消の消費活動を促進する。</p>		<p>施策②地域ブランドの創出による地域経済の活性化</p> <p>地域経済を活性化して、雇用の創出をめざして、特産品開発や既存の特産品（「天王山しぐれ」など）を活用した新しいレシピや加工品を考案するなど、町内事業所と連携した特産品開発支援に取り組む。</p> <p>また、地元農産物の販売所を維持・発展させて、地産地消の消費活動を促進する。</p>																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">具体的な施策</th> <th>重要業績指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>町内事業所と連携した特産品開発支援</td> <td>○ 特産品開発とブランド化の創出支援</td> <td>○ 特産品開発数</td> </tr> <tr> <td>地元農産物の消費拡大</td> <td>○ 地元農産物の消費拡大</td> <td>○ 農産物直売所数（1施設）の維持</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な施策		重要業績指標	町内事業所と連携した特産品開発支援	○ 特産品開発とブランド化の創出支援	○ 特産品開発数	地元農産物の消費拡大	○ 地元農産物の消費拡大	○ 農産物直売所数（1施設）の維持	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重要業績評価指標</td> <td>特産品開発の支援体制の整備</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農産物直売所数（1箇所）の維持</td> <td>1箇所（H26）</td> </tr> </tbody> </table>			目標値	基準値	重要業績評価指標	特産品開発の支援体制の整備	-	農産物直売所数（1箇所）の維持	1箇所（H26）
具体的な施策		重要業績指標																		
町内事業所と連携した特産品開発支援	○ 特産品開発とブランド化の創出支援	○ 特産品開発数																		
地元農産物の消費拡大	○ 地元農産物の消費拡大	○ 農産物直売所数（1施設）の維持																		
	目標値	基準値																		
重要業績評価指標	特産品開発の支援体制の整備	-																		
	農産物直売所数（1箇所）の維持	1箇所（H26）																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">主な取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>町内事業所と連携した特産品開発支援</td> <td>○ 大山崎ブランドの育成支援</td> </tr> <tr> <td>地元農産物の消費拡大</td> <td>○ 地元農産物の消費拡大</td> </tr> </tbody> </table>		主な取り組み内容		町内事業所と連携した特産品開発支援	○ 大山崎ブランドの育成支援	地元農産物の消費拡大	○ 地元農産物の消費拡大											
主な取り組み内容																				
町内事業所と連携した特産品開発支援	○ 大山崎ブランドの育成支援																			
地元農産物の消費拡大	○ 地元農産物の消費拡大																			

素 案	修 正 案																					
	<p>施策③観光振興による雇用の創出</p> <p>観光資源の発掘・創造のまちづくり、広域観光によるにぎわいづくり、歴史遺産の輝くまちづくりへの取り組みによる観光振興により観光産業を活性化して、雇用の創出に取り組む。</p> <table border="1" data-bbox="1137 443 2087 1129"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">重要業績評価 指標</td> <td>観光協会の設立</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>町ホームページの観光情報へのアクセス件数（月平均） 1,600件</td> <td>900件（H26）</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊者数の倍増</td> <td>17人（H25）</td> </tr> <tr> <td>広域連携観光参加者の拡大</td> <td>270人（H26）</td> </tr> <tr> <td>新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映</td> <td>5ルート*（H25）</td> </tr> <tr> <td>歴史資料館入館数 11,500人</td> <td>9,775人（H26）</td> </tr> <tr> <td>観光バス駐車利用台数 19.3台</td> <td>16.3台（H26）</td> </tr> <tr> <td>卸・小売業の事業所数、従業員数の拡大</td> <td>97事業所、572人（H26）（経済センサス基礎調査）</td> </tr> </tbody> </table> <p>*京都府「京都やましろ観光」モデルコースにおける本町が関わりあるコース</p>			目標値	基準値	重要業績評価 指標	観光協会の設立	-	町ホームページの観光情報へのアクセス件数（月平均） 1,600件	900件（H26）	外国人宿泊者数の倍増	17人（H25）	広域連携観光参加者の拡大	270人（H26）	新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映	5ルート*（H25）	歴史資料館入館数 11,500人	9,775人（H26）	観光バス駐車利用台数 19.3台	16.3台（H26）	卸・小売業の事業所数、従業員数の拡大	97事業所、572人（H26）（経済センサス基礎調査）
	目標値	基準値																				
重要業績評価 指標	観光協会の設立	-																				
	町ホームページの観光情報へのアクセス件数（月平均） 1,600件	900件（H26）																				
	外国人宿泊者数の倍増	17人（H25）																				
	広域連携観光参加者の拡大	270人（H26）																				
	新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映	5ルート*（H25）																				
	歴史資料館入館数 11,500人	9,775人（H26）																				
	観光バス駐車利用台数 19.3台	16.3台（H26）																				
	卸・小売業の事業所数、従業員数の拡大	97事業所、572人（H26）（経済センサス基礎調査）																				

素 案	修 正 案										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="1137 252 2087 300">主な取り組み内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1137 300 1485 502">観光資源の発掘・創造のまちづくり【再掲】</td> <td data-bbox="1485 300 2087 502"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観光振興の推進体制の整備 ○ 本町における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ インバウンドを見据えた観光の振興 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1137 502 1485 758">広域観光によるにぎわいづくり【再掲】</td> <td data-bbox="1485 502 2087 758"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣市町と連携し観光振興を促進 ○ 広域における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ 歴史資料館の情報発信の強化 ○ 観光インフラの整備 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1137 758 1485 853">歴史遺産の輝くまちづくり【再掲】</td> <td data-bbox="1485 758 2087 853"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の学びの推進 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1137 853 1485 954">観光産業の活性化による雇用の創出</td> <td data-bbox="1485 853 2087 954"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業と連携した商工業の活性化の促進 </td> </tr> </tbody> </table>	主な取り組み内容		観光資源の発掘・創造のまちづくり【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光振興の推進体制の整備 ○ 本町における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ インバウンドを見据えた観光の振興 	広域観光によるにぎわいづくり【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣市町と連携し観光振興を促進 ○ 広域における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ 歴史資料館の情報発信の強化 ○ 観光インフラの整備 	歴史遺産の輝くまちづくり【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の学びの推進 	観光産業の活性化による雇用の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業と連携した商工業の活性化の促進
	主な取り組み内容										
	観光資源の発掘・創造のまちづくり【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光振興の推進体制の整備 ○ 本町における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ インバウンドを見据えた観光の振興 									
	広域観光によるにぎわいづくり【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣市町と連携し観光振興を促進 ○ 広域における新たな観光テーマ・ストーリーの設定と情報発信の強化 ○ 歴史資料館の情報発信の強化 ○ 観光インフラの整備 									
	歴史遺産の輝くまちづくり【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史の学びの推進 									
	観光産業の活性化による雇用の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業と連携した商工業の活性化の促進 									